

朝日新聞 2010(平成22)年1月20日(水) 佐賀版 ぶらりミュージアム

20日 水曜日 11版 第2佐賀 佐賀 26

ぶらり ミュージアム

県立博物館・美術館

いかにも楽しげに宴を催している七福神。扇子を手に舞う福祿寿、琵琶を奏でる弁財天、米俵の上でこやかに酒を飲む大黒天。画面の右側には上から寿老

七福神図



楽しげな宴の様子描く

人、鼓を打つ毘沙門天、大きな袋にもたれる布袋、鯛を傍らに置く恵比須が描かれています。

現世利益を願う福神信仰が、七福神という形をとるようになったのは、中世末期以降だといわれます。七福神信仰は江戸時代を通じて流行し、正月に巡拝して開運を祈る七福神詣でも盛んに行われました。構成する神々にも出入りがありましたが、江戸時代後期以降、ほぼ現在のメンバーで落ち着いたようです。恵比須以外はインドや中国など外国からの渡来神で、国際色豊かなユニットです。

描いた絵師は成富椿屋(1815~1907)。幕末の蓮池藩士で、南面を得意とした人物です。この絵は、県立博物館のテーマ展示「新春をことほぐ」で2月7日まで展示しています。

(県立博物館・美術館)
学芸員 本多美穂

メモ 佐賀市城内1の15の
23。電話0952・24・39
47。バス停「博物館前」下
車、徒歩1分。開館は午前9
時半〜午後6時。月曜(祝日
なら翌日)休館。2月1日は
開館。

成富椿屋筆／江戸～明治時代(19～20世紀)／紙本淡彩／102.9×48.6センチ／掛幅装／県立博物館蔵